

第七十九回帝國議會 衆議院

所得稅法中改正法律案外十七件委員會會議錄(速記)第二回

會議

昭和十七年一月二十四日(土曜日)午後一時十五分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 勝 正憲君

理事松永 義雄君 理事川崎末五郎君

理事駒井 重次君 理事大石 倫治君

理事河野 密君

伊藤 五郎君

卯尾田毅太郎君

小高長三郎君

岡本實太郎君

加藤 鯛一君

猪野毛利榮君

宇賀 四郎君

小野 謙一君

小畑虎之助君

篠原 陸朗君

立川 平君

大橋清太郎君

松田竹千代君

村上紋四郎君

山本 芳治君

百瀬 渡君

佐竹 晴記君

森田 福市君

同月二十三日委員古屋慶隆君及小山邦太郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ大橋清太郎君及加藤鯛一君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

大藏大臣 賀屋 興宣君

豐田 收君

藤本 捨助君

眞鍋 儀十君

森 肇君

田川大吉郎君

金井 正夫君

青木 作雄君

本日の會議ニ上リタル議案左ノ如シ

所得稅法中改正法律案(政府提出)

法人稅法中改正法律案(政府提出)

所得稅法人稅内外地關涉法中改正法律案(政府提出)

相續稅法中改正法律案(政府提出)

織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

出席政府委員左ノ如シ

內務次官 湯澤三千男君

大藏省主稅局長 松隈 秀雄君

大藏書記官 平田敬一郎君

大藏書記官 池田 勇人君

本日の會議ニ上リタル議案左ノ如シ

所得稅法中改正法律案(政府提出)

法人稅法中改正法律案(政府提出)

所得稅法人稅内外地關涉法中改正法律案(政府提出)

相續稅法中改正法律案(政府提出)

織物消費稅法中改正法律案(政府提出)

物品稅法中改正法律案(政府提出)

付託議案

所得稅法中改正法律案(政府提出)(第二〇號)

法人稅法中改正法律案(政府提出)(第二二號)

所得稅法人稅内外地關涉法中改正法律案(政府提出)(第二三號)

相續稅法中改正法律案(政府提出)(第二四號)

織物消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二五號)

物品稅法中改正法律案(政府提出)(第二六號)

電氣瓦斯稅法案(政府提出)(第二七號)

廣告稅法案(政府提出)(第二八號)

馬券稅法案(政府提出)(第二九號)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)(第三〇號)

臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)(第三一號)

特別法人稅法中改正法律案(政府提出)(第三二號)

營業稅法中改正法律案(政府提出)(第三三號)

臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)(第三四號)

國庫出納金端數計算法中改正法律案(政府提出)(第三五號)

戰時災害國稅減免法案(政府提出)(第三六號)

所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律案(政府提出)(第三七號)

地方分與稅法中改正法律案(政府提出)(第三八號)

電氣瓦斯稅法案(政府提出)

廣告稅法案(政府提出)

馬券稅法案(政府提出)

印紙稅法中改正法律案(政府提出)

臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

特別法人稅法中改正法律案(政府提出)

營業稅法中改正法律案(政府提出)

臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)

國庫出納金端數計算法中改正法律案(政府提出)

戰時災害國稅減免法案(政府提出)

所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律案(政府提出)

電氣瓦斯稅法案(政府提出)

廣告稅法案(政府提出)

馬券稅法案(政府提出)

地方分與稅法中改正法律案(政府提出)

○勝委員長 ソレデハ是ヨリ開會致シマス、本委員會ニ審査ヲ委託セラレマシタ所ノ所得稅法中改正法律案、法人稅法中改正法律案、所得稅法人稅内外地關涉法中改正法律案、相續稅法中改正法律案、織物消費稅法中改正法律案、物品稅法中改正法律案、電氣瓦斯稅法案、廣告稅法案、馬券稅法案、印紙稅法中改正法律案、臨時利得稅法中改正法律案、特別法人稅法中改正法律案、營業稅法中改正法律案、臨時租稅措置法中改正法律案、國庫出納金端數計算法中改正法律案、戰時災害國稅減免法案、所得稅等ノ日滿二重課稅防止ニ關スル法律案、地方分與稅法中改正法律案、以上ノ十八案ヲ議題ニ供シマス、是ヨリ大藏大臣ノ說明ヲ求メマス

○賀屋國務大臣 本委員會ニ付託ナリマシタ所得稅法中改正法律案外十六件ノ法律案ニ付キマシテ、提案ノ理由ヲ說明申上ゲタイト存ジマス

本會議ニ於テモ說明致シマシタ如ク、政府ハ財政ノ需要、國民生活及ビ國民經濟ニ及ボス影響等ニ付キマシテ慎重考究ヲ遂ゲマシタ上、稅制ノ全般ニ互ル増稅計畫ヲ立テルノ必要ヲ認メタノデアリマス、ソレデ曩ニ早急實施ヲ要シマスル分ニ付キマシテ、酒稅其ノ他ノ間接稅ヲ中心トスル増稅案ヲ第七十七回帝國議會ニ提案ヲ致シマシテ、其ノ御協贊ヲ經マシテ既ニ實施致シテ居ルノデアリマスルガ、今回更ニ増加致シマスル臨時軍事費ノ一部ニ充テマスル爲ニ、直接稅ヲ中心トスル増稅ヲ行ヒ、是ト共ニ必要ナル稅法ノ改正ヲ行フコトト致シマシテ、之ニ關スル法律案ヲ本議會ニ提案致シタ次第デアリマス

今回ノ増稅案ノ作成ニ當リマシテハ、戰時ニ於ケル財政需要ニ對應シテ國庫收入ノ増加ヲ圖リ、之ニ依ツテ戰時財政ヲ強化スルコトガ主眼デアリマスルガ、一面其ノ實行ノ結果ト致シテ購買力ノ吸收、消費ノ抑制ニモ資スルコトデアリマス、ソレ等ノ見地カラ現下ニ於ケル經濟情勢及ビ國民負擔力ヲ考慮シツツ、分類所得稅ノ增徵ヲ中心ト致シマシテ、各種ノ直接稅ニ付キ相當稅率ヲ引上ゲマスルト共ニ、現行間接稅ノ一部ニ付キマシテモ、必要ナル增徵ヲ行フコトト致シタノデアリマスルガ、其ノ外ニ電氣瓦斯稅、廣告稅及ビ馬券稅ヲ創設致シタノデアリマス、尙ホ貯蓄ノ増強、生産力ノ擴充、産業ノ再編成、特ニ中小工業ノ再編成、竝ニ人口及ビ國民保健政策ノ圓滑ナル遂行ニ資スル等ノ爲メ、適當ト認メラルル租稅上ノ措置ヲ講ズルコトト致シタノデアリマス、以下今回ノ增稅案ノ内容ニ付キマシテ御說明申上ゲマス

先ヅ分類所得稅デアリマスガ、先ニ述ベマシタ今次增稅ノ趣旨ニ鑑ミマシテ、增稅ノ主眼ヲ之ニ置クコトト致シ、廣ク國民ハ其ノ能力ニ應ジテ戰費ヲ負擔スルコトトシ、一面ニ購買力ノ吸收ニ資スル見地ヨリ、各種所得間ノ負擔ノ權衡ニ留意シツツ、稅率ノ引上及ビ免稅點之ハ基礎控除ノ引下ヲ行ヒ、總額ニ於テ大體五割五分ノ增徵ヲ行フコトト致シタノデアリマス、其ノ改正ノ要點ハ、第一ニ稅率ノ引上デアリマス、即チ不動産所得ニ付テハ百分ノ十ヲ百分ノ十六ニ、配當利子所得ニ付キマシテハ百分ノ十ヲ百分ノ十五ニ、營業所得ニ付キマシテハ百分ノ八・五ヲ百分ノ十三ニ、營業以外ノ事業所得ニ付キマシテハ百分ノ七・五ヲ百分

ノ十二ニ、又勤勞所得ニ付テハ百分ノ六ヲ百分ノ十ニ引上ゲルコトト致シタノデアリマス、之ニ伴ヒマシテ配當利子所得中ノ國債及ビ地方債ノ利子、銀行貯蓄預金等ノ利子ニ付テモ、稅率ヲソレノ百分ノ五ダケ引上ゲマシタ、少額ノ事業所得、山林ノ所得、退職所得等ニ付キマシテモ適當ナル引上ヲ行フコトト致シタノデアリマス、尙ホ不動産所得ノ稅率引上ニ伴ヒ、少額ノモノニ付テハ負擔ヲ多少緩和スルヲ適當ト認メマシテ、稅率ヲ百分ノ十四ニ致シマシタ

第二ハ、右ノ增稅ニ伴ヒ扶養家族多キ者ノ負擔ヲ緩和シマスルコトハ、負擔ノ衡平ノ見地ヨリ見マシテモ、人口及ビ國民保健政策ノ見地カラ考ヘマシテモ、此ノ際適當ナル措置ト存ゼラレマスルノデ、扶養家族ノ控除額ヲ現行年百五十圓ノ百分ノ八、即チ月一圓デアリマスルノヲ年二百圓ノ百分ノ十二、即チ月二圓ニ引上ゲマスルト共ニ、控除ヲ受クベキ所得者ノ範圍ヲ擴張シテ、綜合所得稅ヲ納ムル者ニ付テモ控除ヲ認ムルコトト致シ、更ニ五人以上ノ子女ヲ有スル所得者ニ對シマシテハ、特ニ控除額ヲ年二百圓ノ百分ノ十八、即チ月三圓ニ致シタノデアリマス

保險料ノ百分ノ六トアリマスルノヲ、年二百四十圓以内ニ於テ百分ノ十ト致シタノデアリマス

第四ハ、生命保險料ニ付テモ、此ノ際控除額ヲ相當程度引上ゲルコトヲ適當ナリト認メマシテ、現行年二百圓以内ニ於テ拂込

第五ハ、銀行貯蓄預金、産業組合貯金等ニ付キマシテハ、從來三千圓ヲ限度トシテ所得稅ヲ免除シテ居ルノデアリマスガ、之ニ付テモ貯蓄ノ獎勵、郵便貯金預入最高限度ノ引上等ヲ考慮致シマシテ、五千圓ニ引上ゲルコトト致シタノデアリマス

第六ハ、株式ノ清算市場ニ於ケル取引ニ因ル所得ニシテ、從來課稅セラレナカツタモノガアリマス、之ニ付テモ他ノ所得トノ權衡上、新タニ分類所得稅ヲ課スルコトト致シマシテ、株式ノ清算取引ヨリ生ジタル所得ヨリ三千圓ヲ控除シタル殘額ニ對シ、百分ノ二十五乃至百分ノ五十五ノ稅率ニ依リ課稅スルコトト致シタノデアリマス、尤モ此ノ課稅ハ昭和十八年分ヨリ行フノデアリマス

次ニ綜合所得稅ニ付キマシテハ、第一ニ課稅最低限ハ從來五千圓デアリマシタガ、各方面共ニ負擔ヲ增加スル要アル此ノ際ト致シマシテハ、之ヲ引下ゲルヲ適當ト認メマシテ三千圓ト致シタノデアリマス、第二ニ稅率ニ付キマシテハ、現行法ニ於ケル稅率ガ既ニ相當高率ノ課稅ヲナシテ居リマスル點ヲ考ヘマシテ、大體二割ノ引上ヲ行フコトト致シ、三千圓ヲ超ユル部分ニ對スル百分ノ六乃至五十圓ヲ超ユル部分ニ對ストト致シタノデアリマス、右ノ稅率引上ニ對應致シマシテ、公社債、銀行預金ノ利子等ニ付テ源泉課稅ヲ選擇シタル場合ニ於ケル綜合所得稅ノ稅率ヲ百分ノ十五ヨリ百分ノ二十五ニ引上ゲタノデアリマス、第三ニ

配當所得ニ付キマシテハ、分類所得税ヲ課スル場合ニ其ノ一割ヲ控除シテ課税シ、綜合所得税ヲ課スル場合ニハ分類所得税ニ於テ輕減サレタ税額ヲ加算シテ居ルノデアリマスルガ、今回右ノ加算ヲ廢止スルコトト致シタノデアリマス

次ニ法人税ニ付テハ、分類所得税及ビ綜合所得税ノ増徴トノ權衡、増税ガ經濟界ニ與フル影響等ニ付キ考慮致シマシタ結果、所得ニ對スル税率ヲ百分ノ十八ヨリ百分ノ二十五ニ引上ゲルコトト致シマシタ、同族會社ノ加算税率ニ付キマシテモ現行税率百分ノ二十乃至百分ノ六十五ヲ、百分ノ二十四乃至百分ノ七十二ニ引上ゲルコトト致シタノデアリマス

次ニ臨時利得税ニ付キマシテハ、戰時ニ於ケル超過利得ニ相當課税スルノ趣旨ニ依リマシテ、法人臨時利得税ニ於テハ、利得金額ノ區分ヲ改正スルト共ニ、税率ヲ百分ノ二十五乃至百分ノ六十五デアリマスルモノヲ、百分ノ三十五乃至百分ノ七十五ニ引上ゲタノデアリマス、併シ一面小法人ニ付テハ從來通り税率ヲソレト、百分ノ十輕減スルコトト致シマシタ外、昭和十二年以後ニ第一事業年度ノ終了スル法人ニシテ積立金ノ少額ナルモノニ付キマシテハ、其ノ企業ノ基礎ヲ堅實ナラシムル趣旨ヨリ致シマシテ、一定ノ利得ニ對シ税率ノ引上ヲ見合セテ、負擔ノ緩和ヲ圖ルコトト致シタノデアリマス、個人ノ臨時利得税ニ付キマシテハ、營業利得ニ對スル税率現行百分ノ三十デアアルモノヲ百分ノ三十五ニ引上ゲマシタ

又不動産等ノ讓渡ニ因リ利得ヲ得ル者ニ對シ課税致シマセヌコトハ、負擔衡平ノ見地カラ見マシテ、適當デナイト認メラレマス

ノデ船舶、鑛業權等ノ讓渡利得ト同様之ニ課税スルコトト致シ、税率ニ付キマシテモ現行百分ノ二十五トアリマスルノヲ、百分ノ二十五乃至百分ノ五十五ノ超過累進率ニ改メタノデアリマス、此ノ讓渡利得ニ關スル改正案ハ昭和十八年分ヨリ適用スルコトト致シテ居ルノデアリマス

次ニ特別法人税ニ付キマシテハ、一般ノ法人ニ對スル法人税ノ増徴ニ對應シ、産業組合其ノ他ノ特別ノ法人ニ對シテモ負擔ヲ增加スル爲メ、現行税率百分ノ六ヲ法人税ノ半額、即チ百分ノ十二・五ニ引上ゲルト同時ニ、森林法ノ改正ニ依リ森林組合及同聯合會ガ出資ヲ有シ、且ツ經濟行爲ヲナシ得ルコトトガ認メラレルコトトナリマシタノデアリマス、他ノ特別ノ法人トノ權衡上是等ニ對シマシテモ、新タニ本税ヲ課税スルコトト致シタノデアリマス

次ニ相續税デアリマスガ、右ニ述べマシタ如ク所得ニ對シ相當ノ増税ヲ致シマス關係上、財産ニ對シマシテモ此ノ際或ル程度負擔ヲ增加スルヲ適當ト認メマシテ税率ノ引上ヲナシ、總稅額ニ於テ二割程度ノ増徴ヲ行フコトト致シタノデアリマス、尙ホ相續税ニ付キマシテハ今回ノ増税ニ伴ヒマシテ、次ノ二ツノ點ニ付テ改正ヲ行フコトト致シマシタ、即チ第一點ハ扶養家族アル者ノ負擔ヲ緩和スル爲メ、控除額ヲ現行千圓ヨリ千五百圓ニ引上ゲタコトデアリマス、第二ニ増税ニ因リ負擔ガ相當増加致シマス關係上、納税ノ便ニ資スル爲メ、不動産ニ依リ物納シ得ベキ稅額ノ範圍ヲ二割程度擴張セントスルノデアリマス

次ハ間接税デアリスマガ、織物消費税ニ付キマシテハ、現在ノ負擔ヲ考慮シタル

上、税率ヲ百分ノ十ヨリ百分ノ十五ニ引上ゲタノデアリマス、尤モ人造絹織物等ノ中、一般大衆ノ生活ニ關係ノ深い織物ニ付キマシテハ、臨時的措施トシテ現行税率百分ノ十ヲ据置クコトト致シタノデアリマス

其ノ他物品稅中「マッチ」ニ付テハ現行税率千本ニ付キ五錢デアリマスルノヲ、千本ニ付キ十錢ニ引上ゲマシタ、又印紙稅ニ付キマシテハ、物品切手ヲ除キ、最近屢次ノ増税ニ當リ之ヲ増徴シナカツタ點ヲモ考慮シマシテ、例ヘバ受取書ニ付キマシテハ三錢ヲ五錢ニ、委任狀ニ付キマシテハ二錢ヲ三錢ニ引上ゲ、總稅額ニ於テ七割程度ノ増税ヲ行フコトト致シマシタ

次ニ新稅ト致シマシテハ、電氣瓦斯稅、廣告稅及ビ馬券稅ヲ創設スルコトト致シタノデアリマス、電氣瓦斯稅ハ住宅、商店等ニ於ケル電氣又ハ瓦斯ノ使用ニ付キマシテハ、他ノ消費稅トノ權衡上應分ノ負擔ヲナサシムルヲ適當ト認メラレマスルノミナラズ、之ニ課税スルコトニ依リマシテ、消費ノ抑制ニモ資シ得ルトノ見地ヨリ致シマシテ、住宅、商店、旅館、劇場等ノ用ニ使用スル電氣瓦斯ノ消費料金ガ一月三圓以上ノモノ等ニ對シマシテ、料金ノ百分ノ十ノ税率ヲ以テ課税セントスルノデアリマス、尙ホ十六燭ノ定額燈ヲ四個又ハ普通ノ瓦斯七輪ヲ二個程度使用スル者ニ對シテハ、一月三圓以上ニ上リマス場合ニ於テモ課税セザルコトト致シテ居ルノデアリマス

廣告稅ハ、廣告ハ通常營業ニ關スルモノデアリマシテ、之ニ依リマシテ營業上ノ利益ヲ相當増加シ得ルモノデアリ、又營業ニ關セザルモノニ付キマシテモ、斯カル方面ニ對スル支出ハ相當擔稅力アリト認メラレ

マスノデ、之ニ付テモ或ル程度ノ課税ヲナスヲ適當トスルノ見地カラシテ、廣告ノ性質、徵稅ノ便宜等ヨリ廣告ヲ二種ニ分チマシテ、新聞紙、雜誌等ノ出版物、汽車、電車等ノ交通運輸機關等ニ依ル廣告ヲ第一種トシ、「ポスター」立看板等ヲ第二種ト致シマシテ、第一種ノ廣告ニ付キマシテハ料金ノ百分ノ十、第二種ノ廣告ニ付キマシテハ一定額ノ税率、例ヘバ「ポスター」ニ付テハ一個ニ付キ十錢、立看板等ニ付テハ一個ニ付キ原則トシテ二十錢ノ税率ニ依リ課税スルノデアリマス

次ハ馬券稅デアリマス、競馬ノ勝馬投票券ノ賣上ニ對シテハ、從來納付金ヲ納付セシメテ居ルノデアリマスガ、勝馬投票券又ハ優等馬票ノ賣上金及ビ其ノ購買者ニ對スル拂戻金ニ付キマシテハ、此ノ際或ル程度ノ課税ヲナスヲ適當ト認メマシテ、本稅ヲ創設致シタノデアリマス、即チ勝馬投票券ノ賣上金ニ付テハ百分ノ七、優等馬票ノ賣上金ニ付テハ百分ノ四、勝馬投票券ノ購買者ニ對スル拂戻金ニ付テハ百分ノ二十、優等馬票ノ購買者ニ對スル拂戻金ニ付テハ百分ノ十ノ税率ニ依リ課税セントスルノデアリマス

次ニ臨時租稅措置法ノ改正ニ付キマシテ說明致シタイト存ジマス、今回ノ增稅案ノ作成ニ當リマシテハ、增稅スベキ租稅ノ種類及ビ增稅額ノ決定ニ當リマシテ、經濟諸政策トノ調和ニ付キ慎重ナル考慮ヲ拂ツタ次第デアリマスガ、尙ホ貯蓄ノ増強、生産力ノ擴充、産業ノ再編成政策ノ圓滑ナル遂行ニ資スル等ノ爲メ、臨時租稅措置法ヲ改正シテ租稅上必要ナル各種ノ措置ヲ講ズルコトト致シタノデアリマス

第一八、戰時下益、緊要トセラレマスル國  
民貯蓄ノ増強ニ資シマスル爲ノ措置デアリ  
マス、即チ個人ノ長期預金及ビ一定期間据  
置キタル登録公社債等ノ利子ニ對スル分類  
所得稅ヲ百分ノ一乃至百分ノ五輕減スルコ  
トニ致シマシタ、次ニ今回ノ配當利子所得  
ニ對スル増稅ハ、金融機關ニ對シ相當ノ影  
響ヲ及ボスコトナリマスノデ、金融機關  
ノ資金運用ヲ合理的ナラシムルト共ニ、其  
ノ經營ヲ堅實ニスル爲ニ、分類所得稅ノ緩  
和ヲ圖ルコトニ致シマシタ、即チ金融機關  
相互間ノ預金デアリマシテ、一定ノ條件ヲ  
具備スルモノニ付テハ分類所得稅ヲ免除シ、  
又銀行、生命保險會社等ノ保有スル供託公  
社債又ハ登録公社債ノ利子ニ對スル分類所  
得稅ノ稅率ヲ百分ノ二乃至百分ノ六輕減セ  
ントスルモノデアリマス、其ノ他生命保險  
會社ニ對シテハ、昭和十五年ノ稅制改正ニ  
於テ、株式配當ニ對シ源泉課稅ヲ創設シタ  
際ニ、從前ヨリ所有スル株式ノ配當ニ對シ  
テハ、分類所得稅ヲ百分ノ四輕減致シタノ  
デアリマスガ、今回其ノ輕減ノ程度ヲ多ク  
シテ、百分ノ五ノ輕減スルコトニ致シタノ  
デアリマス

第二八、時局下極メテ重要ナル生産力ノ  
擴充ニ資スル爲ノ方策デアリマス、即チ法  
人ノ留保所得ニ對スル課稅輕減ノ制度ヲ擴  
張シタコトデアリマス、現行法ニ於キマシ  
テハ、法人ガ所得ノ三割以上ヲ留保シマシ  
タル場合、而シテ其ノ場合ニ於テ之ヲ生産  
設備ノ擴張又ハ國債等ノ保有ニ運用シタル  
場合ニ於テハ、其ノ運用金額ノ百分ノ三・六  
ニ相當スル法人稅ヲ輕減スルコトニ致シテ  
居ルノデアリマスガ、今回ハ所得ノ一割以  
上ヲ留保シテ同様ノ目的ニ運用シタル場合

ニ於キマシテハ、其ノ運用金額ノ百分ノ七・  
五、之ニ相當スル法人稅ヲ輕減スルコトト  
致シタノデアリマス、又配當所得ニ對スル  
增稅ガ今後ノ株式拂込ニ與フル影響ヲ緩和  
シ、企業ノ擴張ニ便ナラシムル爲メ、時局  
產業會社等ノ新規拂込株式ノ配當金デアリ  
マシテ、配當率一定以下ノモノニ對スル分  
類所得稅ノ稅率ヲ百分ノ二ニ輕減スルコト  
ト致シタノデアリマス、其ノ他政府保證社  
債ノ優遇ニ資スル爲ニ、其ノ利子ニ對スル  
分類所得稅ノ稅率ヲ百分ノ一輕減シテ、地  
方債ノ場合ト同ジク致シマシタ、即チ百分  
ノ十四ト致シタノデアリマス第三八、企業  
ノ再編成ニ關シ、租稅上必要ト認メラルル  
措置ヲ講ジタノデアリマス、即チ企業ノ合  
同整理ハ時局下愈、緊要ト認メラレルノデア  
リマスガ、課稅上ニ於テモ其ノ促進ニ資シ  
マスル爲ニ、法人ガ昭和十八年三月マデニ  
專業ノ統制ノ必要上、合併又ハ解散シタル  
場合ニ於テハ、清算所得ニ對スル法人稅ヲ  
百分ノ十五又ハ百分ノ二十ニ輕減シ、又事  
業ノ統制ノ必要上、合併解散シタル法人ノ  
株主等ノ受クル所得稅法第八條ニ規定スル  
利益ノ配當ニ付キマシテハ、分類所得稅ヲ  
百分ノ五輕減スルコトト致シマシタ、又昭  
和十六年又ハ昭和十七年中ニ營業ノ全部又  
ハ大部分ヲ廢止シタル個人ニ對シテハ、所  
得稅及ビ營業稅ヲソレト、輕減又ハ免除ス  
ルコトト致シ、其ノ他課稅標準ノ計算ニ關  
スル特例、登録稅ノ輕減等ニ付テモ規定ヲ  
設クルコトト致シマシタ、以上ノ外統制會社  
等ガ價格政策ノ必要上設クル所ノ價格平衡  
資金、法人ノナス寄附金等ニ關シテモ規定  
ヲ設クルコトト致シタノデアリマス、尙ホ  
別ニ企業經營ノ堅實化ニ資スル爲メ、固定

資產ノ減價償却年限ヲ適正化スル見込デア  
リマス  
次ニ戰時災害ノ特質ニ鑑ミ、被害者ノ納  
付スベキ國稅及ビ被害物件ニ對シ、課セラ  
ルベキ國稅ニ付キ輕減又ハ免除等ヲナス爲  
メ、戰時災害國稅減免法ヲ制定シ、又日滿  
相互關係ノ緊密化ニ伴ヒ、兩國間ノ重複課  
稅ヲ防止スル爲ニ、所得稅等ノ日滿二重課  
稅防止ニ關スル法律ヲ制定スルコトト致シ  
タノデアリマス、其ノ外營業稅法、所得稅  
法人稅内外地關涉法及ビ國庫出納金端數計  
算法ニ付テモ、必要ナル改正ヲ行フコトト  
致シタノデアリマス

以上今次增稅等ニ關スル法律案ニ付キ御  
說明申上ゲタノデアリマスガ、今回ノ增稅  
ニ依リマシテ、平年度ニ於キマシテ分類所  
得稅ノ增加額ガ四億二千四百八十餘萬圓、  
綜合所得稅ノ增加額ガ一億六千二百一十餘萬  
圓、合計五億八千五百十餘萬圓デアリマス、  
法人稅ノ增加ガ一億四千三百餘萬圓デアリ  
マス、臨時利得稅ノ增加ガ二億四千九百三  
十餘萬圓デアリマス、特別法人稅ノ增加二  
百六十餘萬圓、相續稅ノ增加二千四百九十  
餘萬圓、織物消費稅ノ增加六千九百九十餘萬  
圓、物品稅ノ增加千三百餘萬圓、電氣瓦斯  
稅ノ創設ニ因ル增加千九百餘萬圓、廣告稅  
ノ創設ニ因ル增加九百二十餘萬圓、馬券稅  
ノ創設ニ因ル增加四千九百餘萬圓、印紙稅  
等印紙收入ノ增加八百七十餘萬圓ト相成リ  
マスノデ、結局平年度約十一億五千五百萬  
圓、初年度タル昭和十七年度約九億七千三  
百萬圓ノ增收トナル見込デアリマス、此ノ  
昭和十七年度ノ增收額ハ、臨時軍事費追加  
豫算ノ財源トシテ、一般會計ヨリ同特別會  
計ニ繰入ルルコトト致シテ居ルノデアリマ

以上今次增稅案等ニ付キ說明申上ゲタ  
次第デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ御贊  
成アラントフ希望致シマス  
○勝委員長 ソレデハ次ニ分與稅法中改正  
法律案ニ付キマシテ內務次官ノ說明ヲ求メ  
マス  
○湯澤政府委員 內務大臣ガ出席出來マセ  
スノデ、私ヨリ提案ノ理由ヲ御說明申上ゲ  
タイト存ジマス、本委員會ニ付託トナリマ  
シタ地方分與稅法中改正法律案ニ付キマシ  
テ、其ノ概要ヲ御說明申上ゲタイト思ヒマ  
ス

內務大臣ヨリ本會議ニ於キマシテ申上ゲ  
マシタ如ク、今回地方分與稅法ニ付キマシ  
テ改正ヲ必要ト致シマスル理由ハ、國稅ノ  
增稅等ニ伴ヒマシテ、配付稅ノ割合ニ付テ  
當然改正ヲ要スルモノガデアリマスルト共  
ニ、地方團體ヲシテ戰爭關係諸經費ノ處辨  
ニ支障ナカラシメンガ爲ニ、明年度配付稅  
ノ總額ヲ增額スルコトトナリマシタガ、配  
付稅分與ノ適正ヲ期スル上ニ於キマシテ、  
其ノ分與方法中緊急差措キ難キ數點ニ付キ  
マシテ改正ヲ加ヘントスルモノデアリマス、  
而シテ右改正ハ大體五項目ニ互ツテ居ルノ  
デアリマス

其ノ第一點ハ、配付稅ノ基本國稅ノ增稅  
等ニ伴フ配付稅割合ノ改正デアリマスガ、  
是ハ所得稅及ビ法人稅ヨリスル割合ノ改正  
ト、入場稅及ビ遊興飲食稅ヨリスル割合ノ改  
正トノ二ツデゴザイマス、先ヅ所得稅及ビ  
法人稅ヨリスル割合改正ハ、今回ノ國稅ノ  
增稅ニ伴ヒマシテ、配付稅ノ收入ニ變動ヲ  
來サシメナイコトヲ目標トシテノ改正デア  
リマス、即チ增稅後ニ於キマシテモ、增稅

前ノ所得税額ト法人税額ヨリスル配付税三億五千九百餘万圓ト、今回ノ増税中ノ臨時利得税及ビ臨時租稅措置法中ノ改正ニ伴フ地方税ノ差引減收額一千餘万圓トノ合算額三億六千九百餘万圓ヲ配付税所要額トシテ確保スル爲メ、現行繰入割合ノ百分ノ十七・三八ヲ百分ノ十三・二二ト改正セントスルモノデアリマス

次ニ入場税及ビ遊興飲食税ヨリスル配付税ノ割合ハ、第七十七議會ニ於テ、右二税ノ増税ニ伴フ一應ノ措置トシテ、機械的ニ割合ノ改正ヲ致シタノデアリマスガ、何分大幅ノ増税デモアリマスノデ、相當消費ノ減少ヲ來スモノトシテ、二税ノ減少ヲ見込ムコトトナリマシタガ、之ニ伴ヒマシテ配付税繰入額ニ減少ヲ來サザルヤウ措置スル必要ガアリマスノデ、先般改正致シマシタ割合百分ノ十五・一八ヲ再ビ改メテ、百分ノ十九・八四ニ引上ゲンタルモノデゴザイマス

次ニ第二點ハ、配付税ノ道府縣分ト市町村分ノ分與割合ノ改正デアリマスガ、昭和十六年度ノ道府縣、市町村ニ於ケル課税ノ狀況等ニ徴シマスルト、尙ホ市町村ノ方ガ概シテ高率ノ賦課ヲナスノ已ムヲ得ザル等、財政ガ相當窮屈ノヤウデアリマスノデ、此ノ際財源ノ一部ヲ市町村ニ移讓スルノ必要ヲ認メマシテ、道府縣百分ノ六十二ヲ六十トシ、市町村百分ノ三十八ヲ四十トシ、割合ニ於テ百分ノ二、配付税額ニ於テ凡ソ一千萬圓ニ近イ程度ノモノヲ道府縣ヨリ市町村ニ移讓セントスルモノデアリマス

次ニ第三點ハ、道府縣ノ課税力ノ算定ニ於テ控除スル災害土木費負債額ノ割合ノ改正デアリマス、現行規定ニ依リマス、道府縣ノ課税力ハ、災害土木費負債額ノ十五

分ノ一ヲ控除シテ計算シ、負債ノ額ニ應ジテ配付税ヲ多ク分與スルコトニナツテ居リマスガ、現行ノ程度デハ十分デナイヤウニ認メラレマスノデ、約倍額程度ノ七分ノ一ニ引上げヨウト存ズルノデアリマス

次ニ第四點ハ、分與額ノ經過的制限ノ程度ヲ緩和スル爲メノ改正デアリマス、現行法ニ依リマス、昭和十九年度マデハ經過的制限トシテ、舊税額ヲ一定ノ遞増率デ割増シタ額ヲ基準トシ、此ノ額ニ比シテ改正税額ニ依ル新税額ト配付税額トノ合算額ガ多クナル時ハ、一定ノ制限ヲ加ヘテ配付税ヲ分與スルコトニナツテ居リマスガ、右一定ノ遞増率ヲ法律デ決メテアルコトハ實情ニ即セズ、且ツ不當ナル結果ヲ生ジマスノデ、之ヲ實際ノ地方税ノ増加趨勢ヲ見究メマシテ、規定スルヲ適當ト認メラレマスノデ、此ノ遞増率ハ法律ニ規定セズ、命令ヲ以テ定ムルコトニ致シタイト存ズルノデアリマス

最後ノ第五點ハ、昭和十七年度配付税分與額算定ノ一箇年延期デアリマス、昭和十七年度以降ノ配付税ハ、現行法ニ依リマスト、其ノ前年度ニ於テ分與額ヲ算定ノ上通達スルコトニナツテ居リマスガ、明年度分ノ配付税ヲ本年度中ニ算定スルコトト致シマス、未ダ改正税制實施後ノ適正ナル税ノ實績ガ現ハレテ居リマセズ爲メ、非常ニ無理ナ課税力ニ依ツテ計算分與スルコトニナル虞ガアリマスノデ、分與ノ適正ヲ期スル爲メ算定ヲ一箇年延期シ、昭和十七年度ニ於テ正シイ課税力等ヲ調査シテ、分與額ヲ算定スルコトニ致シタイト存ジマシテ、之ニ伴フ關係條文ノ改正ヲ行ハントスルモノデゴザイマス

以上地方分與税法中改正法律案ノ概要ニ付キ説明致シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御賛成アラントヲ希望致シマス

○勝委員長 資料ノ要求ガゴザイマスカ

○岡本委員 資料ノ御提出ヲ御願ヒ致シマス、私ガ御願ヒスルノハ昭和十一年度以降ヲ御願ヒシタイ、ソレハ事變前ノ年ヲ基礎ト致シタイカラデアリマス、昭和十六年度ハ見込デ宜シウゴザイマス、其ノ前提ノ下ニ御願ヒ致シマス、第一ハ公債ト租税トノ金額、其ノ歩合、第二ハ經常支出ト經常收入トノ比較、金額及ビ歩合、但シ經常收入ハ租税ト其ノ他ヲ區分シテ御願ヒシタイ、租税以外ノ其ノ他ハ一本デ宜シウゴザイマス、第三ハ増税ノ豫算ト其ノ實收ノ比較ヲ御願ヒ致シタイ、稅種毎ニ御願ヒ致シマス、尙ホ實收ノ中ニ自然增收ト認メラレル金額ヲ附記シテ戴キタイ、第四ト致シテ關稅收入表ヲ御願ヒ致シマス、若シ戻稅ガアルナラバ別ニ是ハ附記シテ戴キタイ、ソレダケ要求シテ置キマス

○河野(密)委員 茲ニ資料要求ヲ簡條書ニシタモノヲ持ツテ居リマスガ、讀ミ上ゲルノヲ省略シテ、差上ゲマスカラ宜シク……

○勝委員長 承知致シマシタ

○川崎(末)委員 私モ二、三ノ資料ヲ御願ヒ致シタイト思ヒマスガ、書面ニシテ書上ゲテアリマス、ソレデ之ヲ當局ノ方ハ差上ゲマスカラ、之ニ依ツテ資料ノ御提出ヲ願ヒマス、但シ他ノ要求サレタ資料ト重複シテ居ルモノガアルカモ知レマセヌガ、ソレハ省イテ戴イテ、何レカ一方戴ケバ結構デアリマス

○勝委員長 宜シウゴザイマス——資料ノ

要求ハ只今御聽キノ通りデアリマス、成ベク早日ニ御出シシナルヤウニ御願ヒ致シマス、ソレカラ今請求サレタ中ニアルカドウカ知リマセヌガ、ナケレバ今度ノ増税案ノ増税ノ各税目別平年度及ビ初年度ノ增收額竝ニ其ノ算出ノ基礎ノ一覽表ヲ作ツテ御出シ願ヒマス、他ニゴザイマセヌカ——ソレデハ本日ハ是ニテ散會致シマス、次ハ月曜日ノ午前十時カラ時間厲行デ開會致シマス午後二時四分散會

(參照)

川崎(末)委員要求ノ參考資料

一、最近五ヶ年間ノ稅種別實收額調(決算未済ノ分ハ見込額)

二、國債ノ現在額、最近五ヶ年間ノ國債種類別發行額調

三、最近五ヶ年間ノ主要物價調

四、最近五ヶ年間ノ利率調

五、最近五ヶ年間ノ預金(貯金額調(銀行預金、郵便貯金、其ノ他ヲ區分シテ))

六、最近五ヶ年間專賣收益調、竝ニ專賣品ノ價格引上調

七、事變以來ノ租稅增收ノ稅率比較表

八、十七年度ニ於ケル稅種別稅額及增收額調、竝ニ增收額ナカリシモノトシテノ增收額ニ對ス增收額ノ百分比調

河野(密)委員要求ノ參考資料

一、直接稅及間接稅ノ割合調

二、新增稅ニヨル各稅種別增收見込額調

三、分類所得稅中勤勞所得ノ改正ニヨル納稅義務者ノ増加及納稅增加見込額調

四、扶養家族ノ控除額引キ上ゲニヨル減免見込額調

五、不動産所得、配當利子所得、事業所

得、勤勞所得ヲ各三千圓、五千圓、一  
萬圓、一萬五千圓トセル場合ニ於ケル  
負擔額調

六、臨時租稅措置法改正ニヨル負擔減免  
ノ實狀

七、國民所得ト租稅割合調

八、新增稅ヲ織込ミタル株式、國債、社  
債ノ利廻リ調

岡本委員要求ノ參考資料

一、昭和十一年度以降、公債ト租稅トノ  
金額及歩合（十六年度ハ見込トス、以  
下同ジ）

二、同上經常支出ト經常收入トノ比較（金  
額及歩合）  
（但經常收入ハ租稅ト其ノ他ト區分ノコ  
ト）

三、同上以降増稅豫算及實收（稅種毎）  
（但實收中自然増收ト認ムル金額附記  
ノコト）

四、同上關稅收入表（但戻稅アレバ別ニ  
附記ノコト）